子どもたちの声

岡田 伊佐央

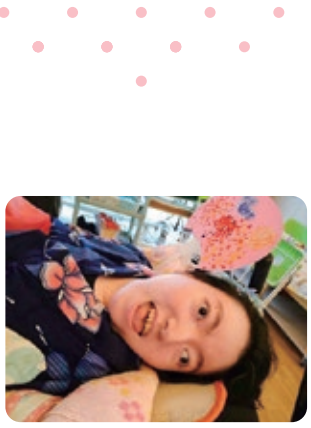
わたしは、子どもたちの声を聴くボランティア活動をしています。コロナ禍において、子どもたちを取り巻く環境は、大きく様変わりしました。学校休校の措置がとられた時期には、「学校に行きたい。友達と会えなくて寂しい。」といった声が多く寄せられました。

その一方で、おうち時間での子どもらしい工夫を話してくれたり、「日頃の家事をこなす母親の大変さに気づくことができた。」「家族との時間を過ごすことで、家族のあたたかさを改めて感じることができた。」と話してくれる子もいました。つらい状況の中でも、しっかり前を向いている子どもたちの声を聴くことができました。そのことが、わたしにとって一番のエールになりました。

コロナに負けず夏を楽しむ はぁもにぃっ子

NPO法人 はぁもにぃ永平寺

はぁもにぃ永平寺のみんなはコロナ禍にも負けずに毎日、元気な笑顔を見せてくれます。夏祭りや水遊びで夏を楽しみました。元の日常に戻ったら、地域の皆さんと一緒に心の底から笑える日を待っています。



かんよもん弁当を配りました！

おおい町社会福祉協議会
小規模多機能ホームかんよもん

まだ新型コロナがどのような広がりをみせるか分からなかった2020年4月、初の緊急事態宣言が発令され、子供たちの学校生活は休校というかつてない状況でのはじまりとなっていました。いろんな不安を抱えたまま家で過ごしている地域の子供たちのために何かできないかと考え、共働きなどでお子様の昼食作りに困っているご家庭の小学生を対象に手づくりのお弁当を無料で提供することにしました。

少しでも笑顔になってもらいたい気持ちで、子供たちが好きなメニューを毎回考え、こころを込めて計4回325食のお弁当をつくりました。また子供たちが自分で取りに来ることができるよう、民生委員の方やかんよもんの利用者さんにも協力をしていただき、各集落に受け取り場所をつくり配布しました。

回数を重ねていくごとに、子供たちの方から「ありがとうございます！おいしかったです！」と言ってくれたり、お礼のお手紙をくれて、配った私たちの方が嬉しい気持ちにしてもらいました。

今回は休校中のみの取り組みとなりましたが、これからも地域に根差した事業所として、地域に貢献できることを行っていきます。

子どもたちに笑顔と元気！そしてありがとう

永平寺町社会福祉協議会

「わあ、好きなお菓子がいっぱい。食べるのが楽しみです。」「どれから食べようか迷ってしまうぐらいとても嬉しいです。ありがとうございます。」「コロナ禍でみんなが元気ないけど、私の心が明るくなりました。」等々、夏休みにひとり親家庭にお菓子を袋いっぱいに届けた時の子どもたちの元気な声やメッセージの一部です。

お菓子を手にした子どもたちの、嬉しそうにニヤニヤとした表情は、微笑ましく、眩しいぐらいの眼差しです。私たちも、心の中で歓喜「やったー。喜んで貰えて良かった。」と温かい気持ちになったことを覚えています。

コロナ禍で、障がい者や高齢者全ての方々が、自粛生活を余儀なくされ、毎日を何となく暗い日々を送っています。せめて子どもたちに笑顔と元気を届けることが出来たことは、何よりも嬉しく、私たちも満足と達成感を肌で感じた熱い夏でした。

私たちからも子どもたちに「ありがとう。」って伝えたいです。

なによりの「ごちそうさま」

NPO法人 こころ

コロナ渦中、夏休み限定で子ども食堂を開催しました。この企画は、孤食の子供たちを少しでも減らしたい目的の他に、夏休みの間、仕事をしながらお留守番している子供のことを気になっていた自分の経験のもとに、働くご家族に少しでも安心して仕事に従事いただきたいという思いから開催しました。

初めての子ども食堂で、小さな感動がたくさんありました。あえてオーソドックスなカレーを作らず、バターチキンカレーを作ったところ、初日は全員バターチキンカレーの注文が入り無事完食。「おいしかった」と言ってくれた時は、思わずガッツポーズでした。

宿題を終えたT君、ミサンガづくりをスタッフと一緒に、黙々と無心に作ってくれました。

お母様から頂いたお手紙の中に「ミサンガづくり楽しかったみたいです。家に帰ってからも、家族の分も作ってくれて、今でも足に付けてます。来年も子ども食堂お願いします。夏休み期間、長い間子どもだけの留守番になるため、今回の子ども食堂は有難かったです。」

秋になった今でもミサンガを大事にしてくださっているT君。

子ども食堂に共感してくださったお母様。

緊急事態宣言で、食堂から宅配へ変更。インターフォンを鳴らすと、「はーい、今行きます」とマンション中に響きわたる元気な声と足音。満面の笑みで「ありがとう」とうけとってくださったS君。

子供たちと働くご家族のために企画した子ども食堂でしたが、小さな感動で自分自身の心が熱く胸いっぱいになり、「ありがとう」という感謝の気持ちでお腹がいっぱいになりました。

「ごちそうさまでした。」